

CONTENTS:

- P1 巻頭言「FDとはコミュニケーションのこと」  
2011年度後期授業アンケート実施概要
- P2 授業アンケート新システム「C-learning」導入  
FDフォーラム開催
- P3 2010年度後期・2011年度前期授業アンケート  
結果報告
- P4 初任教員向けプログラム実施



# FDとは コミュニケーションのこと

教育センター  
副センター長  
松岡 和夫

FDという言葉を知ったのは十数年前。faculty=学部という印象から、組織の長が行うことで、教員には直接関係ないだろうという意識でした。facultyとは教員集団のことであり、FDの主体が教員なのだということに気付かされたのは文科省や他大学の動きを知るために教育研究会などへ何回か参加するようになってからのことです。FDと聞くと研究会への参加や授業評価など煩わしいことを思い浮かべがちですが、広い意味では教育研究活動全般についての教員の能力を組織全体で高めあうことであり、教員にとって利益になります。

さて、私はFDにはコミュニケーションが重要だと感じています。教員と教員の、教員と学生のコミュニケーションを図ること、さらには学生同士のコミュニケーションを促すことです。これまでも教員は教育内容の改善のために個々に努力してきましたが、個人の範囲では限度があります。今年の学生はどのような学生なのか、他のクラスはどのような様子なのか、他の科目では何をどのように教えているのかなどについて、周りの教員や職員と平素からいろいろ話し合い、情報交換を行っておくことが大事

です。そのためには平素から滑らかな人間関係を築いておくことが必要でしょう。ただ、最近は学科の細分化などもあり、教員同士のコミュニケーションの場が少し減っているように感じています。教職員同士の横のつながりをもっと強くしていきたいものです。また、工学部一般教育科では非常勤講師の数が専任教員の2倍以上であり、非常勤の先生方とのコミュニケーションが特に重要です。教務担当の教員だけでなく、教職員全員で対応していますが、顔を合わせる機会が少ないのが悩みの種です。

学生とのコミュニケーションについては学生の気持ちや授業の理解度を把握し、授業を円滑に進めるためにも必要です。さらに学びあいやクラブ活動への参加を促すなど、学生同士のコミュニケーションを図ることのできる気を起こさせることができます。このようなコミュニケーションを通じ、大阪工大がより明るく元気な大学になっていくのではないかと思います。

## FDフォーラムを開催しました！

第1回（通算13回）7月1日開催

テーマ「3つのポリシー：書き方のポイント」

ーディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを中心にー

講師 沖 裕貴氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）

立命館大学教育開発推進機構教授の沖 裕貴先生をお迎えして講演いただき、120名を超える教職員が参加しました。

本学においては昨年度、大学が卒業時に保証する資質としてのGP（Graduation Policies）を策定しました。

本講演では、GP策定の専門家としての立場から、他大学の事例や、本学のGPへの具体的提案など、幅広くお話ししていただきました。

具体的かつ詳細な説明をされる沖先生に対し、参加者は熱心に聞き入っていました。



**【お知らせ】**

**本学GP(ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー)について**

策定した内容については今後、毎年見直しを行っていくことになります。2011年度末までに

- (1)学部Policiesのブラッシュアップ
- (2)大学院Policiesの策定

をすべく、全学教務委員会にて各学部・研究科に準備のお願いをしています。

# 授業アンケート新システム「C-learning」を導入しました！

2011年度前期の授業科目から、授業アンケート（実施・集計・フィードバック）の新システムを導入し、授業担当者の皆様にご利用いただきました。導入までの道程、今後の目標についてまとめました。

## 1. これまでの授業アンケート実施の問題点

従来、紙媒体のアンケート用紙で実施していた授業アンケートには次の問題点がありました。

- ①OMRIによる集計（6万枚を超える読み込み作業、マークエラー修正作業）に長い時間を要する。
  - ②集計後に行う、授業担当者・学生へのフィードバックが数ヶ月後になる。
  - ③速やかな授業改善に役立てることができない。
  - ④学科へのフィードバック内容が限定される（自由記述欄など）。
  - ⑤紙媒体実施であっても、数百万円の経費を要する。
- FD委員会では、これら多くの問題点を早期に解決し、学生から得た生きた意見を迅速に授業改善につなげたいと模索していました。

## 2. クリアすべき課題

授業アンケート実施方法そのものについても、大学全体で足並みをそろえるべき点がありました。

従来、学部・学科によって無記名式アンケートと記名式アンケートが混在しており、それぞれにメリット・デメリットがあることから統一することができていませんでした。

FD委員会では各学部にて検討をお願いし、2011年度前期の授業科目については、全学的に無記名式アンケートで統一することを決定しました。

## 3. 問題点解決のための新システム導入

従来の問題点を解決するため、新しい集計システムの導入を検討し、「C-learningシステム」（以下、C-learning）の導入を決定しました。C-learningの特長は次のとおりです。

### 【授業アンケート集計について】

- ①学生は携帯電話で授業アンケートに回答し、その内容はリアルタイムで自動集計される。  
（＝集計時間の短縮化）
- ②授業担当者が個々にパソコンから集計結果を確認できる。  
（＝担当教員への迅速なフィードバック）
- ③教員が入力したコメントを学生に閲覧させることができる。  
（＝学生への迅速なフィードバック）

### 【授業運営支援ツールとしての機能について】

大学全体で実施する授業アンケートとは別に、担当教員が自由にアンケートを設定する機能がある。ミニッツペーパーやクリッカーとして活用することができ、授業運営に有効なツールとなる。

### 【システム全般について】

汎用性のあるユーザーの意見や要望はシステム改善に採用され、2週間ごとにリリースされる契約となっている。そのため、導入後に発生した問題点を概ね解決することができる。



学生の回答画面



教員向け事前説明会

## 4. 授業担当者への事前説明・お願い

個々の授業において、実際に授業アンケートを実施するのは授業担当者です。新システム導入が、かえって授業担当者を混乱させ、手間をかけてしまっては何の意味もありません。

そのような事態を避けるため、教員対象の説明会を2011年6月に計5回（大宮キャンパス3回、枚方キャンパス2回）実施しました。説明会では新システムへの理解を求めると共に協力をお願いしました。また実際に学生の立場になって、授業アンケートに回答するデモにも参加していただきました。

参加いただいた教員からは多くの質問が寄せられ、その質問内容によって事前に解決できたシステム上の問題点も多くありました。

## 5. 新システムによる実施・今後の目標

上述の準備を経て、2011年7月2日から7月19日の間に開講された前期13週目または14週目の授業内で、新システムによる授業アンケートを実施しました。

授業担当者および学生の協力の下に、大過なく授業アンケートを実施することができました。

授業担当者は、開講期間内に授業アンケート回答結果により、学生の理解状況や率直な意見をシステム上で閲覧することができ、従来にはなかったスピード感を感じていただけたと思います。

FD委員会では新システムによる新しい授業アンケートをスタートさせましたが、今後も教員・学生の皆様の理解を仰ぐ働きかけを怠ることなく、さらに進歩させていきます。

今後とも授業アンケート実施へのご協力をお願いするとともに、実施方法への率直なご意見をお寄せくださるようお願いいたします。

# 2011年度後期の授業アンケート実施概要をお知らせします

9月18日開催の全学FD委員会にて、2011年度後期の授業アンケート実施概要が決定しました。

授業アンケートを従来以上に授業改善に役立てていただけるよう、実施内容を変更しますので、何卒ご協力ください。

## 【変更点・ポイント】

- (1) 実施回数を半期あたり1回から2回に増やします。
- (2) 第1回目と第2回目のアンケート内容にそれぞれ特長をもたせます。
- (3) 第1回目アンケートは授業の中期（8～9週目の授業）に実施することで、半期の開講期間中の授業改善に直結させます。
- (4) 第2回目アンケートは13週目～14週目に実施し、15週目に学生へフィードバックします。
- (5) 第1回目アンケートは記名式、第2回目アンケートは無記名式で実施します。

区分	時期・日程	記名	ポイント
第1回目アンケート	★8 or 9週目 2011年11月8日～ 2011年11月24日	記名	自由記述2問のみとし、学生の率直な意見を後半の授業に速やかに反映させる
第2回目アンケート	★13 or 14週目 2011年12月13日～ 2012年 1月16日	無記名	従来と同一のアンケート設問で実施し、学生へのフィードバックを行う

## 【第1回目アンケートの設問】

- 問1 これまでの授業において良かった点を記入してください  
問2 今後の授業において改善して欲しい点を記入してください

# 2010年度後期・2011年度前期に実施した 授業アンケートの概要と集計結果を報告します

**【実施科目数等】** ※実施時期 2010年度後期：2010年12月中旬～2011年1月下旬、2011年度前期：2011年7月上旬～中旬（授業13・14回目）

区分	年度・期	科目数	履修者数	回答者数	回答率
学 部	2010後	1,200	73,208	48,060	65.7%
	2011前	1,346	79,778	50,891	63.8%
大学院	2010後	111	1,430	849	59.4%
	2011前	124	1,858	1,242	66.9%
総 計	2010後	1,311	74,638	48,909	65.5%
	2011前	1,470	81,636	52,133	63.9%

**【設問項目】** ※大学院知的財産研究科を除く

設問	回答項目	設問内容
問1	B	この授業の進め方や到達目標について説明がありましたか
問2	A	この授業にどの程度出席しましたか
問3	B	この授業に意欲的に取り組みましたか
問4	C	この授業の復習をしましたか
問5	B	この授業の到達目標を達成できましたか
問6	B	この授業はシラバス等の内容に沿って行われましたか
問7	B	この授業は学生の理解度を配慮しながら進められましたか
問8	B	この授業の教員の声や発音は明瞭で、聞き取りやすかったですか
問9	B	この授業で黒板やスクリーンの図や文字は見やすかったですか
問10	B	この授業の担当教員から授業に対する熱意を感じましたか
問11	B	総合的に考えて、この授業を受講してよかったと思いますか

**【回答項目】** A:バターン 5:100% 4:80%~100%未満 3:60%~80%未満 2:40%~60%未満 1:40%未満  
 B:バターン 5:大変そう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない 2:そう思わない 1:まったくそう思わない  
 C:バターン 5:大変よくした 4:よくした 3:時々した 2:あまりしなかった 1:まったくしなかった

**【集計結果(点数の平均)】** ※大学院および工学部（夜間）を除く

学 部	学科等	年度・期	科目数	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11
工学部(昼間)	共通科目	2010後	327	4.26	4.40	4.03	3.48	3.84	4.13	4.05	4.22	4.13	4.22	4.17
		2011前	321	4.09	4.59	3.93	3.01	3.66	3.98	3.78	4.09	3.90	4.04	3.95
	都市デザイン工学科	2010後	47	4.15	4.36	4.00	3.65	3.84	3.99	3.83	3.91	3.84	3.98	3.96
		2011前	56	3.85	4.49	3.83	3.14	3.57	3.83	3.44	3.61	3.45	3.70	3.68
	空間デザイン学科	2010後	37	4.19	4.28	4.11	3.48	3.78	4.05	3.96	4.01	3.95	4.18	4.21
		2011前	49	3.98	4.42	3.92	2.92	3.59	3.93	3.67	3.95	3.76	4.03	3.97
	建築学科	2010後	38	4.16	4.35	3.93	3.50	3.68	3.98	3.79	3.94	3.85	4.09	4.06
		2011前	76	4.08	4.48	3.97	3.12	3.61	3.94	3.62	3.89	3.73	4.00	3.96
	機械工学科	2010後	56	4.26	4.56	4.14	3.64	3.88	4.10	3.98	4.14	4.03	4.14	4.16
		2011前	128	4.00	4.62	3.95	3.08	3.66	3.89	3.61	3.89	3.69	3.87	3.85
	ロボット工学科	2010後	11	4.24	4.73	4.19	3.50	3.78	4.03	3.87	4.02	4.03	4.09	4.21
		2011前	25	4.00	4.77	3.87	2.87	3.41	3.75	3.40	3.76	3.64	3.73	3.81
	電気電子システム工学科	2010後	43	4.32	4.52	4.08	3.49	3.79	4.25	4.03	4.24	4.08	4.25	4.22
		2011前	52	4.08	4.58	3.96	3.15	3.62	4.01	3.66	3.97	3.78	3.96	3.92
	電子情報通信工学科	2010後	45	4.30	4.53	4.09	3.57	3.83	4.10	3.97	4.12	4.03	4.14	4.15
		2011前	69	4.08	4.56	3.95	3.28	3.62	4.00	3.66	3.98	3.82	3.99	3.94
	応用化学科	2010後	46	4.25	4.56	4.03	3.50	3.72	4.05	3.87	4.03	3.96	4.10	4.10
		2011前	52	4.14	4.69	3.98	3.09	3.63	4.01	3.67	3.92	3.82	3.95	4.00
	環境工学科	2010後	29	4.11	4.47	3.98	3.52	3.74	3.98	3.83	3.98	3.93	4.06	4.01
		2011前	40	4.00	4.59	3.97	3.26	3.71	3.94	3.69	3.85	3.71	3.93	3.91
生命工学科	2010後	8	4.20	4.68	4.14	3.60	3.84	4.12	3.88	3.98	3.86	4.03	4.15	
	2011前	21	3.66	4.60	3.64	2.79	3.37	3.69	3.27	3.64	3.57	3.61	3.61	
技術マネジメント学科	2010後	30	4.19	4.29	4.09	3.60	3.86	4.10	4.01	4.13	4.11	4.15	4.15	
	2011前	30	4.03	4.31	4.05	3.39	3.78	3.93	3.79	3.95	3.98	3.94	3.95	
生体医工学科	2010後	40	4.33	4.34	4.09	3.68	3.82	4.22	4.04	4.24	4.20	4.18	4.18	
	2011前	43	4.20	4.29	4.03	3.31	3.65	4.15	3.69	4.11	3.90	4.02	3.98	
情報科学部	共通科目	2010後	99	4.05	4.37	3.91	3.24	3.69	3.91	3.86	4.05	3.95	4.08	4.04
		2011前	128	3.91	4.49	3.76	2.75	3.59	3.73	3.65	3.89	3.68	3.89	3.80
	コンピュータ科学科	2010後	48	4.19	4.32	3.99	3.52	3.70	4.08	3.85	4.10	4.01	4.08	4.05
		2011前	39	4.00	4.43	3.88	3.16	3.55	3.91	3.62	3.92	3.80	3.84	3.85
	情報システム学科	2010後	48	4.11	4.36	3.97	3.45	3.64	4.04	3.79	4.02	3.90	3.99	4.00
		2011前	34	3.98	4.43	3.89	3.14	3.59	3.94	3.50	3.90	3.75	3.78	3.81
情報メディア学科	2010後	48	4.06	4.29	3.93	3.42	3.61	3.97	3.78	3.98	3.88	4.00	4.00	
	2011前	38	4.02	4.52	3.94	3.22	3.62	3.93	3.66	3.88	3.72	3.87	3.86	
情報ネットワーク学科	2010後	45	4.17	4.39	4.03	3.52	3.69	4.05	3.86	4.08	3.96	4.06	4.10	
	2011前	32	4.11	4.45	3.99	3.33	3.66	4.05	3.68	3.98	3.86	3.90	3.92	
知的財産学部	基礎教育科目	2010後	35	4.44	4.38	4.29	3.77	4.02	4.32	4.35	4.48	4.37	4.45	4.45
		2011前	48	4.10	4.38	4.03	3.19	3.71	4.07	3.88	4.04	3.97	3.95	3.96
知的財産学科	2010後	93	4.40	4.30	4.17	3.73	3.96	4.30	4.22	4.37	4.28	4.34	4.35	
	2011前	40	4.11	4.28	3.94	3.23	3.70	4.06	3.81	4.09	3.86	4.05	3.97	
教職科目	2010後	27	4.47	4.53	4.32	3.46	3.96	4.23	4.34	4.48	4.42	4.46	4.51	
	2011前	25	4.35	4.53	4.20	3.26	3.90	4.17	4.15	4.40	4.27	4.38	4.28	
平均(合計)	2010後	1,200	4.23	4.41	4.04	3.51	3.79	4.09	3.96	4.13	4.04	4.15	4.14	
	2011前	1,346	4.04	4.53	3.92	3.08	3.63	3.94	3.68	3.96	3.79	3.95	3.90	

※アンケート結果については、2010年度後期は授業科目別レーダーチャートを作成し、各学科学務室を通じて授業担当者にフィードバックしました。2011年度前期は携帯電話を利用したアンケートシステム(C-learning)により実施し、リアルタイムで授業担当者にフィードバックしました。

## 初任教員向けプログラムを実施しました

2011年度着任者向け／9月9日10:00～17:15開催  
プログラム名「授業の基本」

講師 倉茂 好匡氏 (滋賀県立大学 環境科学部環境生態学科 教授)

滋賀県立大学・教育実践支援室長の倉茂 好匡先生をプログラム講師としてお迎えし、今年度着任された本学教員を対象に研修を実施しました。

本学においては、これまで教員向けの研修は実施していませんでしたが、昨年12月に本学FDフォーラムに講師としてお迎えした倉茂先生に本プログラムの講師をお願いできる運びとなり、ようやく実現できたものです。

また本プログラムは本学が加盟する「関西地区FD連絡協議会」との共催とし、他大学からの参加者も受け入れたことにより、学内行事とは異なる雰囲気・緊張感の中での開催となりました。

### 【参加者数】

- ・2011年度着任者 15名
- ・2009年度および2010年度着任者 7名  
(第1・2講のみオブザーバー参加)
- ・他大学からの参加者 16名

\*\*\*\*\*

プログラム内容は第1講から第3講で構成され、第1・2講は授業の基本に関する講義、第3講は教材研究のグループワークが実施されました。

### 【内容詳細】

- 第1講 10:00～12:00 授業の基本① ー基本の基本ー
- 第2講 13:00～15:00 授業の基本② ー授業で陥りやすい罠ー
- 第3講 15:15～17:15 教材研究ワークショップ  
ーグループワークとミニッツレクチャー実技ー

参加者は教授、准教授、講師、技師といった様々な立場の方々でしたが、皆一様に熱心に受講されていました。授業に関する貴重な研修とご理解いただいていたのだと思います。



第1・2講を経て、第3講では6グループに分かれて教材研究のグループワークを行い、最後に各グループで5分のミニ授業を実施し、講師が講評を行いました。

同じテーマでミニ授業を行ったにもかかわらず、6グループとも全く異なった授業展開となっており、それぞれに、板書、発問、視線の投げ方に工夫が見られ、教材研究の大切さや授業における教員の個性というものを実感しました。



「チョークで板書するのが苦手な先生はいますか?」との講師の問いかけに多くの教員が挙手しました。

実際に板書の指導に熱心に取り組む姿です。



グループワークは活気がみなぎっていました。  
ミニ授業は発表者も聴講者もドキドキ。

### 参加報告

工学部

一般教育科 特任講師 鎌野 健



先日、本学で開催された初任教員向けプログラム「授業の基本」に参加しました。

午前中と午後の一部は、講師である倉茂好匡先生の密度の濃い講義が行なわれました。講義では何度も「良い講義」と「悪い講義」が実演され、どこを直すべきなのかということがはっきり認識できました。机間巡視や発問の重要性が多く話されたのも印象的でした。個人的にはなかなか学生との距離感がつかめないことが多く、今後講義で試してみようという案がいくつかありました。また、現在の大学生は中高生時代にアルファベットの筆記体を学習していない、など「教員は知っていると思っていても学生は知らないこと」が意外と多いようです。このような、現在の大学生が何をどの程度知っているのか、ということに敏感でいることが教員として大切であることも学びました。

午後の最後はグループワークが行なわれ、私は班の代表として模擬講義を行なわせて頂きました。なかなか思うように進まない場面もありましたが、終了後に倉茂先生が改善案をわかりやすく提示して下さいました。大学教員は第三者に講義を見てもらうことがほとんどないため、このような経験は大変貴重だと思います。

受講後、それまでは漠然と考えていた「良い授業とは何か」を明確に意識するようになり、本プログラムが自分にとって有益なものであったと感じています。

### 参加報告

知的財産学部

知的財産学科 特任教授 岡本 清秀



今年の4月から本学で教鞭を執ることになり、標記の研修プログラム「授業の基本」に参加する機会を得ました。プログラム

の構成は、授業の基本「基本の基本」と「授業展開で陥りやすい罠」、教材研究実技演習となっていて、学生への授業の仕方についての基本的な教育を受けた経験のない小生にとって、貴重なお話を聞くことができました。

授業の準備、導入→展開→まとめの基本の他、視線、話し方・発声、机間の巡視、板書の活用、発問の強化、学生の観察、言葉使いなど、学ぶところが多くありました。

30年もの間、知財について国内外の企業人、弁理士、弁護士などの社会人の他、他大学などで数多くの研修を多く行ってきて、受講者を惹きつけるそれなりの講義の仕方を会得してきたつもりでしたが、大学で授業を担当した時は通用せず、大きなギャップに困惑しました。従来の講義方式で授業を始めると、注意しない限り、居眠り、私語が出る始末。原因は、勉強意欲がない、勉強の仕方が分からない、文章が読めない・書けない学生が多いことが分かり、学生に合った良い講義方法を模索していたところ、今回の研修を受講できて、貴重なヒントを多く得ることができました。

学んだ研修方全てを取り入れることは時間的には困難ですが、板書の基本的活用方法など、現在の授業に早速取り入れ、改善に努めています。ベテランの先生方も是非一度この研修を受講されては、と思いました。

～FD NEWSを教職員の情報共有にお役立てください～

学部・学科・小グループ・個人での取り組みや活動をFD NEWSに投稿してください。  
授業運営上の悩みを解決した方法などがあれば情報共有していきましょう。

【お問合せ先】

大阪工業大学教務部教務課

TEL.06-6954-4083

FAX.06-6954-4049

kyoumuka@ofc.oit.ac.jp